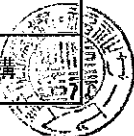


評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	鹿児島県指定 第4670200544号
法人名	有限会社 川内介護福祉会
事業所名	グループホーム 川内森の里
訪問調査日	平成 22 年 1 月 19 日
評価確定日	平成 22 年 2 月 11 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構



○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月24日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670200544号		
法人名	有限会社 川内介護福祉会		
事業所名	グループホーム 川内森の里		
所在地	鹿児島県 薩摩川内市 中郷町 6956番地 49 (電話) 0996-27-6568		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号		
訪問調査日	平成22年1月19日	評価確定日	平成22年2月11日

【情報提供票より】 (21年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 8 月 9 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤7人 非常勤3人	常勤換算8人

(2) 建物概要

建物構造	木造セメント瓦葺平屋 造り		
	1階建ての～1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	11,150 円
敷金	有() 円 ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	0名	要介護2	2名
要介護3	2名	要介護4	4名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 86歳	最低 76歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森園病院 ・ 星元歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの庭から山や川の自然の景色を望む事ができるホームである。大きな大黒柱のあるリビングは、明るく季節の花が活けられ家庭的な空間となっている。代表者の親の介護に対する思いが、ホーム開設のきっかけになり、高齢者への支援体制となって息づいている。管理者や職員は、理念に基づいて利用者を尊重し、自由な暮らしを支え、利用者の穏やかな笑顔が見られるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	居心地良く過ごせる居室の配慮については、本人の好みを活かし、また職員会議や運営推進会議で家族や職員で話し合っ工夫がなされ、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	代表者・管理者・職員が評価に積極的に取り組み、ホームや利用者のために多くの改善点に気づき、サービス向上に活かそうとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域住民や家族・行政などに災害対策や行事への協力など、ホームの課題を積極的に提供し、多くの意見を引出し協力関係が構築されている。家族が交代で参加し、多くの意見を運営に反映しようと取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に相談窓口を明記し、面会綴りで家族の意見を全職員が共有するなど、工夫している。担当者会議や運営推進会議への家族の参加など機会を設け、意見や苦情など運営に反映させるよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域行事や小学校の運動会・文化祭に参加している。代表者もこの地域住民であり、地域の情報収集や日ごろの交流があり、災害訓練など地域住民と連携が図られている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム名を頭文字に、地域密着型サービスとしての理念を職員で話し合い、楽しく分かりやすい事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をパンフレットに明記し、リビングにも掲示し、職員会議で話し合うなど共有に努め、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事や小学校の運動会・文化祭等に参加して、地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員全員は自己評価でグループごとに取り組み、職員会議で話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、事業所の取り組み内容や利用者の状況など報告し、話し合い、多くの意見を引き出し、災害へのアドバイスや行事への協力などサービス向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営や利用者の課題など、電話や訪問などで相談をしている。市担当者との関係作りを積極的に行い、協力関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	森の里便りを毎月発行し、利用者個々にスタッフからの一言を書き添え、ホームでの様子や暮らし振りを報告している。また健康状態などは訪問時や電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会綴りを作成し、利用者の希望や意向を記録して、全職員で共有している。運営推進会議に交代で家族代表に出席してもらい、意見を聞き、運営に反映させるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表者は、馴染みの管理者や職員による支援の重要性を認識している。利用者の状況把握に努め、異動によるダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加者を積極的に推進し、研修参加者は職員会議で研修報告をしている。		ホーム内での研修も、計画的に実施する事が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、研修等での交流や、同業者に電話等で相談したり、交流を通してサービス向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があれば、施設や病院・自宅に伺い懇談している。利用者・家族にホームの見学を勧め馴染んでもらうようにしている。入居後は本人の意志を尊重した対応を心がけ、徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や環境など把握し、料理や畑仕事など活躍の場を提供し、感謝やお礼の言葉をかけて、共に毎日楽しく過ごせるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントやカンファレンスで、本人や家族の思いや意向を聞き、把握している。本人本位で支援できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時や担当者会議で、本人や家族の意見を聞いて、職員会議で話し合い、多くの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しをしている。状態変化があれば、ケース会議で話し合い、臨機応変に見直し、状況に即した新たな介護計画を作成している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制があり、24時間の健康管理や病院受診・送迎など支援している。自宅訪問や正月等の帰省の支援も実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する主治医の受診を支援している。協力病院や他科受診など適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケア及び看取りについて、明文化し入居時に説明し、同意を得ている。入居後も重度化の場合、家族との話し合いの機会を設け、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護について、重要性を認識している。入居者の誇りやプライバシーを損ねる事のないよう、言葉かけや対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているが、起床時間や食事の時間等、利用者のペースで過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好みや季節感を取り入れて作成している。野菜の下ごしらえなど職員と一緒にして、食事が楽しみになるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが、1日4～5人を交代で入浴支援している。本人の体調や希望・タイミングを尊重し、入浴を楽しめるように工夫し支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ドライブや買い物・行事への参加などの楽しみごとや、家庭菜園・調理・掃除・洗濯物干しやたたみなどの役割、習字や歌・レクリエーションなどの気晴らしなど、一人ひとりに配慮した支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、庭でお茶飲みやレクリエーションを実施したり、ドライブや花見などに出かけ、ホームに閉じこもらないように、外出の支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解している。利用者の状況を見守り、職員間の連携を図りながら、自由と安全に配慮したケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練等をしている。災害訓練を実施し、地域の消防団の協力も得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量を記録し、毎月体重測定を実施している。状態に応じて、刻みやとろみ食などの支援をしている。献立については栄養士のアドバイスを受けて栄養バランスにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは大きな大黒柱に支えられ、出窓が有り明るい。テーブルやソファがあり、季節の花や入居者の作品が飾られ、家庭的な雰囲気で居心地良く過ごせる共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンス・机はホーム側で用意したものであるが、それぞれ好みの配置がされ、ぬいぐるみや家族の写真・好きなポスターなどを飾り、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。